

令和元年度「知事と市町長の1対1対談」(多気町) 概要

- 1 対談市町 多気町 (久保 行央 多気町長)
- 2 対談日時 令和元年10月11日(金) 15時30分から16時30分
- 3 対談場所 ふるさと交流館たき コミュニティールーム
- 4 対談項目 1 農業次世代人材投資事業への対策について
対談項目 2 獣害に強い農作物の生産振興について
対談項目 3 県道松阪度会線(野中～土羽)バイパス整備について
対談項目 4 県道全般の維持管理について(草刈り、道路区画線及び道路標示)
対談項目 5 「アクアイグニス多気」開業に向けての支援について
- 5 対談概要

対談項目 1 農業次世代人材投資事業への対策について

(町長)

これまで多気町の新規就農者は、地域の就農サポートリーダーとして先進的に農業を行っている方のもとで研修を受けるとともに、国の助成を受けていました。しかし、国の制度変更により、地元の先進農家での研修では、助成が受けられなくなりました。地元で行う研修には大きな意義があり、例えば地元が扱うトマトやイチゴ、町の特産品でもある伊勢芋、次郎柿などの生産を行う新規就農者にとっては、知識を得られるとともに、地元の先進農家との顔つなぎにもつながり、地域として受入体制の構築にも効果がありました。

そこで、引き続き地元でも研修が実施できるようにJAとの連携を行い、研修機関の立ち上げにご尽力をお願いします。

(知事)

農業次世代人材投資事業・準備型は、就農希望者が農業大学校などの研修機関で研修を受ける場合に、年間上限150万円の資金を2年を限度に交付する事業です。多気町では、先進農家が研修先となって就農希望者を受け入れる仕組みを構築しており、これまでに12名の方にこの事業を活用していただきました。

しかしながら、令和元年度から、国の交付要件が変更され、研修機関の対象が、農業大学校などの県が就農に向けて有効と認める研修を行う機関だけとなってしまい、先進農家で研修する場合は対象外となりました。

岐阜県等では、市町やJAが主体となって作った協議会を研修機関として認めている例があります。本県でも先進農家での研修希望者を受け入れるための新たな協議会の設置に向けて、関係機関向けの研修会を多気町で開催し、気運醸成を図ったところです。

今後も、新規就農を希望する人が、より身近な地域で実践的な研修が受けられる

ように、研修機関として新たな協議会を市町が設置することに対する支援をしっかりとしていきたいと思います。研修機関の運営についても、農業改良普及センターが座学による研修を受け持つなどの協力をしていきたいと考えています。

対談項目 2 獣害に強い農作物の生産振興について

(町長)

中山間地域での獣害対策は、防除フェンスの設置と追払い等により行ってきましたが、特に防除フェンスの維持管理や生産者の高齢化が問題となっていて、このままでは荒廃農地を増やすことになってしまいます。

防除フェンス等の対策には限度があるため、獣に食べられない、獣害に強い農作物づくりに取り組もうとしていますので、技術的な営農指導の支援をお願いします。

(知事)

獣害対策として、知事就任時の平成 23 年から獣害対策課を設置して取組を行ってきました。その結果、農業被害額が平成 23 年度は約 4 億 9 千万円でしたが、平成 29 年度は約 2 億 3 千万円へと減少しました。しかしながら、依然として獣害被害があることから、引き続きしっかりと継続した取組を進めていく必要があると考えています。

色々な獣害対策がある中で、鳥獣被害にあいにくいような薬用作物の振興についても、試験・研究を行っているところです。農業研究所では、国の研究機関や鈴鹿医療科学大学などと連携して、シャクヤクやバクモンドウ、クコ等の栽培試験を行っています。シャクヤクについては、試験結果などに基づき栽培マニュアルを作成し、次のステップである農業者への技術移転を行うため、現地での試行栽培が始められている状況です。

令和元年 5 月から 12 月にかけて、アクアイグニスの関連企業との共同研究を行い、薬草の安定生産技術の開発を行っています。具体的には、薬湯などに利用するシャクヤクやトウキ、センキュウ、ハッカなど薬用作物約 20 品目の最適品種の選定や増殖方法、栽培特性などの調査に取り組んでいるところです。こうした取組結果から、一定の成果を得られていますので、引き続き農業者への技術移転をしっかりと進めるとともに、情報共有に努めたいと思います。獣害対策は、色々な対策を組み合わせることが必要ですので、今後も多気町と連携しながら、しっかりと取り組んでいきたいと思っています。

農林水産省や環境省では、豚コレラの関連もあり、野生イノシシ等の鳥獣害対策を抜本的に検討しているところですので、しっかりと情報収集を行い、地域の声を届けていきたいと思っています。

対談項目 3 県道松阪度会線（野中～土羽）バイパス整備について

(町長)

県道松阪度会線は、多気町相鹿瀬から野中までの間について歩道を含めて整備工事を完了していただきましたが、接続する野中から土羽を通り多気駅までのバイパス整備について、地権者同意の目途が立ち、おおむねのルートを決め、県に要望しているところですが、現在のところ事業の採択に至っていない状況です。また、町内では、県道勢和兄国松阪線が、現在事業実施箇所として動いているところですので、全て一緒には申しませんが、ぜひ早い時期に事業実施箇所として採択していただきたいと思います。地元では、ルート選定まで終わっている状況であり、用地交渉もスムーズに進むと考えますので整備促進をよろしくお願いします。

(知事)

現在、多気町内では、勢和兄国松阪線と国道 368 号の 2 路線の改良工事を行っています。ご要望のありました、県道松阪度会線バイパス整備の野中地内から土羽地内につきましては、一部で用地買収の協力が得られなかったことから、多気町と優先度を調整し、県道勢和兄国松阪線の整備を優先して着手しているところですが、こちらにも未取得用地が残っている状況ですが、令和元年度には一部区間の工事着手を予定しています。

県道松阪度会線バイパス整備については、地権者の同意を得ることができたことで改めてご要望をいただいたところですが、多気町とよく協議をさせていただいた上で、まずは現在事業中の勢和兄国松阪線、国道 368 号の整備をしっかりと推進し、事業効果を発現させた上で、県道松阪度会線バイパス整備の事業化に向けた検討を進めていきたいと思っています。

対談項目 4 県道全般の維持管理について（草刈り、道路区画線及び道路標示）

(町長)

県道の草刈りについては、以前までは年 2 回でしたが、平成 29 年度から年 1 回となっている状況ですので、今までどおり年 2 回の実施をお願いします。

また、道路区画線及び道路標示については、一部引き直しをさせていただいている所もありますが、依然として見えにくい箇所がありますので、引き直しの実施をお願いします。

(知事)

県道の草刈りについては、平成 29 年度より年 1 回の実施としていましたが、交差点部や曲線部など、特に見通しの悪い所や交通の支障となっている箇所については、年 2 回の実施としています。地域の意見も聞きながら、安全の確保に努めていきたいと思っています。

樹木についても、道路パトロールや道路利用者等からの通報により、随時、枝払い等を実施していますので、今後も支障となる樹木の伐採に努めていきたいと思っています。

県管理道路における区画線については、要望も非常に多くいただいていますので、例年は約 200km の実施でしたが、令和元年度は 2.5 倍となる約 500km の引き直しを実施します。予算についても平成 29 年度と比べて約 2.5 倍の額を確保し、区画線の引き直しを優先度の高い所から順番に実施していきます。松阪建設事務所管内においても、平成 29 年度と比べて約 2.4 倍の予算になっています。また、警察が管理する区間線、道路標示についても、平成 29 年度と比べて約 1.7 倍の予算となっています。引き続き、必要な予算を確保して、安全な交通環境の整備に努めていきたいと思っています。

令和元年度の予算は、公共事業費全体で過去 10 年で最高となり、国の事業も活用して県単建設費、県単維持費も増加させることが出来ました。引き続き、有利な財政制度を活用して、予算の確保に努めていきたいと思います。

対談項目 5 「アクアイグニス多気」開業に向けての支援について

(町長)

アクアイグニスについては、食と健康をテーマにした複合型リゾート施設として 6 年前に誘致をいたしました。この施設が全国初の民間直結型スマートインターチェンジとして認められたということは、国も良い事業だと認めたからだと思っています。

北勢には全国でも有名なナガシマスパーランドや鈴鹿サーキットの若者向けレジャー施設があり、南勢には伊勢神宮や世界遺産の熊野古道の歴史文化施設があり、志摩や鳥羽では食を堪能することができます。その中間にある「アクアイグニス多気」は、大人も子どももくつろぐことのできる癒しの施設にしていきたいとの思いから、建物には国産材がふんだんに使用される予定です。食については、ゆったりとしたスローフードが合うと考えています。

町では、施設開業に向けた雇用の確保のため、総務省の地域おこし企業人交流プログラム制度を活用し、3名の企業人採用を進めようとしています。ぜひ県には各種調整などについてご支援、ご協力をお願いします。

(知事)

令和元年 11 月にスペインを訪問し、サン・セバスティアン市にも伺います。その際には、多気町長にもご一緒いただきます。多気町が平成 29 年にサン・セバスティアン市と友好の証を締結いただき、その後、松阪市にゲスタンプ社が進出したことをきっかけに、県とバスク自治州が産業連携を行うことになりました。多気町、

松阪市から始まった取り組みをさらに飛躍させるために、松阪市長や志摩市長、熊野市長も同行いただきスペインを訪問し、多気町長の力もお借りして有意義なものにしていきたいと考えています。アクアイグニス構想の中で良い方向になるように、今回の海外ミッションを生かしていきたいと思ひます。

若者の雇用につきましては、三重県に住んでいる若者に県内企業を知ってもらうために「みえの企業まるわかりNAV I」を活用し、若者目線での情報提供をしています。加えてU・Iターンの促進や、インターンシップの促進、三重県からの進学者の多い県外大学と就職支援協定を締結し、三重県の情報発信するなどの取組を行っています。また、多気町が令和元年度に設置された「U I ターン雇用促進計画」策定のための運営委員会に県も参加させていただいているので、一緒になって取り組んでいきたいと思ひています。アクアイグニス多気は、10月12日（土）に予定している名古屋市で開催の「U I ターン就職セミナー」や、11月9日（土）に予定している東京都の日本大学で開催される東海3県「合同企業説明会」にも参加いただき、積極的にU I ターンの人材確保に取り組んでいただいております。県でも、市町や三重労働局、教育委員会等と連携した研修会を開催し、引き続き若者の定住促進につなげていきたいと思ひています。

アクアイグニスのような食関連産業は、一般的には給与水準が低く、休日勤務や労働時間が長いなどから、従業員の定着率が低く、人材の確保定着が厳しい状況にあります。そこで、この状況を改善するため、県では令和元年度中に「みえ食の人財育成プラットフォーム」を設立し、食関連産業に従事する人材の確保を、産学官で考えていきたいと思ひていますので、多気町ともしっかりと連携して、みえの食の将来を担う人材の確保・育成につなげていきたいと考えています。

（町長）

施設内で自動運転を行い、高速道路に直結する利点を活かして周辺の地域と連携することができるM a a S（次世代移動サービス）モビリティハブ（自動運転総合システム拠点）をめざす計画が進められています。全国に先駆けたI Tを駆使した最先端施設をめざして、スーパーシティ構想に取り組んでいこうとしていますのでご支援、ご協力をよろしくお願ひします。

（知事）

アクアイグニスの施設内や周辺での交通システムの関係については、県でも、M a a S（次世代移動サービス）や自動運転に取り組んでいます。色々な交通手段を考えていくことは重要なことですので、支援できることを具体的に相談させていただきたいと思ひます。

スーパーシティ構想については、県担当者が町と事業者と話させていただいた

と聞いていますので、さらに事業を具体化していく中でよく相談していきたいと思っています。